

霧島山（いおうやまえびの高原（硫黄山）周辺）の火山活動解説資料

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

＜噴火予報（活火山であることに留意）が継続＞

えびの高原（硫黄山）周辺で、昨日（2日）17時37分頃に継続時間約2分30秒の振幅の小さな火山性微動が発生しました。火山性微動の発生に伴い、傾斜計¹⁾でわずかな傾斜変動を観測しました。その後、火山性微動は観測されていません。

本日（3日）実施した現地調査では、硫黄山の火口内の南西側で弱い噴気と硫化水素臭を確認しました。赤外熱映像装置²⁾による観測では、前回（12月28日）の調査と比較し、噴気を確認した付近の熱異常域がわずかに拡大しているのを確認しましたが、熱異常域の最高温度は約80度（前回約80度）で大きな変化は認められませんでした。

えびの高原（硫黄山）周辺の火山活動に更なる活発化は認められませんでした。昨年7月頃から振幅の小さな火山性微動が発生するなど、火山活動がやや高まっていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・地震や微動の発生状況（図1～3）

えびの高原（硫黄山）周辺で、昨日17時37分頃に継続時間約2分30秒の振幅の小さな火山性微動が発生しました。その後、火山性微動は観測されていません。この周辺で火山性微動が発生したのは2015年10月31日以来です。

また、火山性微動発生後に火山性地震が一時的に増加しましたが、その後は少ない状態で経過しています。

・地殻変動の状況（図2）

火山性微動の発生に伴い、韓国岳北東観測点傾斜計で北西方向がわずかに隆起するような傾斜変動が観測されました。その後、火山活動によると考えられる地殻変動は観測されていません。

- 1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。1マイクロラジアンは1km先が1mm上下するような変化です。
- 2) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、宮崎県及び鹿児島県のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『基盤地図情報』『基盤地図情報（数値標高モデル）』を使用しています（承認番号：平26情使、第578号）。

・噴煙など表面現象の状況（図 4、図 5）

本日実施した現地調査では、硫黄山の火口内の南西側で引き続き弱い噴気が発生しているのを確認しました。赤外熱映像装置による観測では、前回（12 月 28 日）の調査と比較し、噴気を確認した付近の熱異常域がわずかに拡大しているのを確認しましたが、熱異常域の最高温度は約 80 度（前回約 80 度）で大きな変化は認められませんでした。

また、硫黄山付近では明らかに感じる程度の硫化水素臭を確認しました。

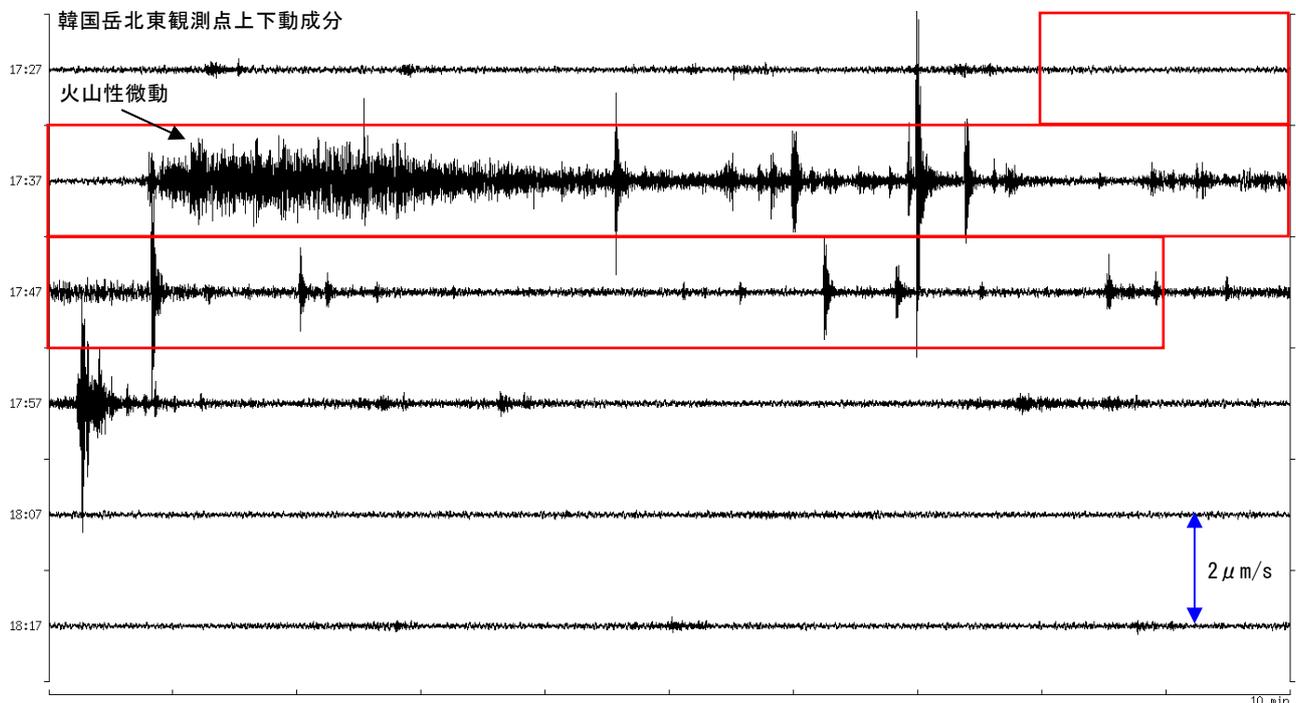


図 1 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 1 月 2 日 17 時 37 分頃に発生した火山性微動と
その後に発生した火山性地震

（1 月 2 日 17 時 27 分～18 時 27 分：韓国岳北東観測点上下動成分）

- ・ 1 月 2 日 17 時 37 分頃に継続時間約 2 分 30 秒の振幅の小さな火山性微動が発生しました。
- ・ 火山性微動発生後に一時的に火山性地震が増加しましたが、その後は少ない状態で経過しています。

赤色の枠は図 2 の表示範囲を示しています。

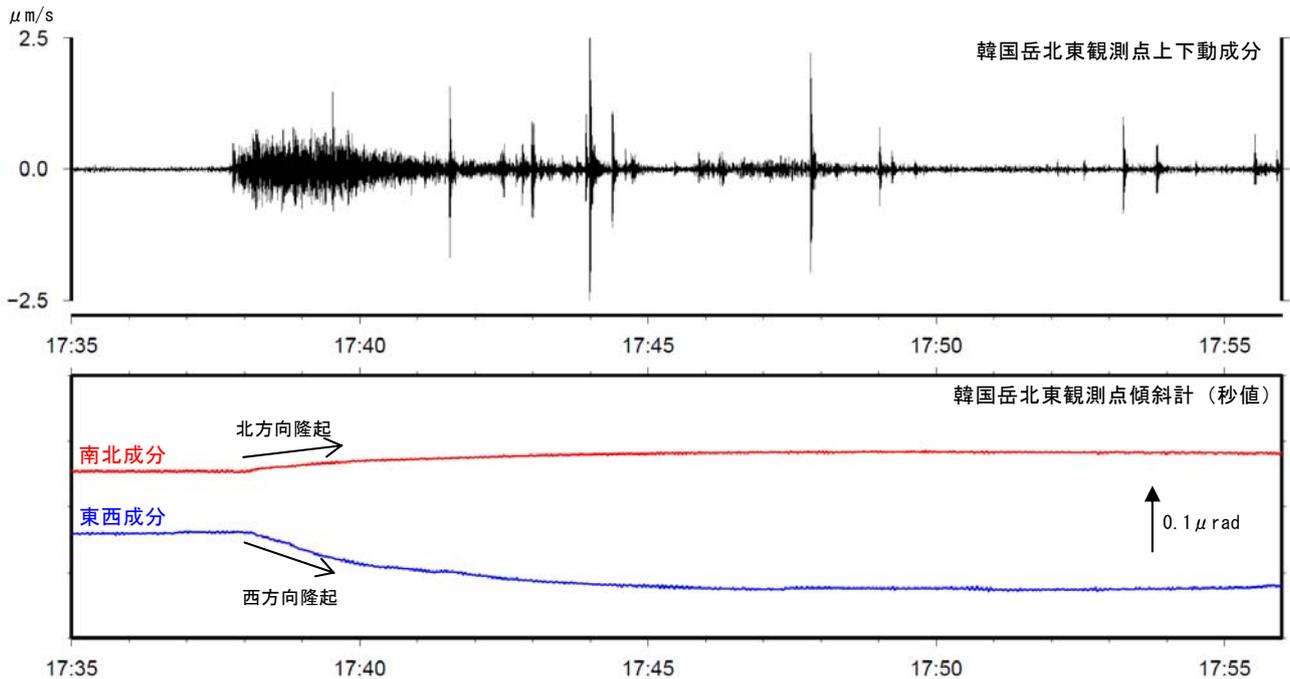


図 2 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 1 月 2 日 17 時 37 分頃に発生した火山性微動とそれに伴う傾斜変動（1 月 2 日 17 時 35 分～17 時 56 分：韓国岳北東観測点）

韓国岳北東観測点で北西方向がわずかに隆起するような傾斜変動が観測されました。

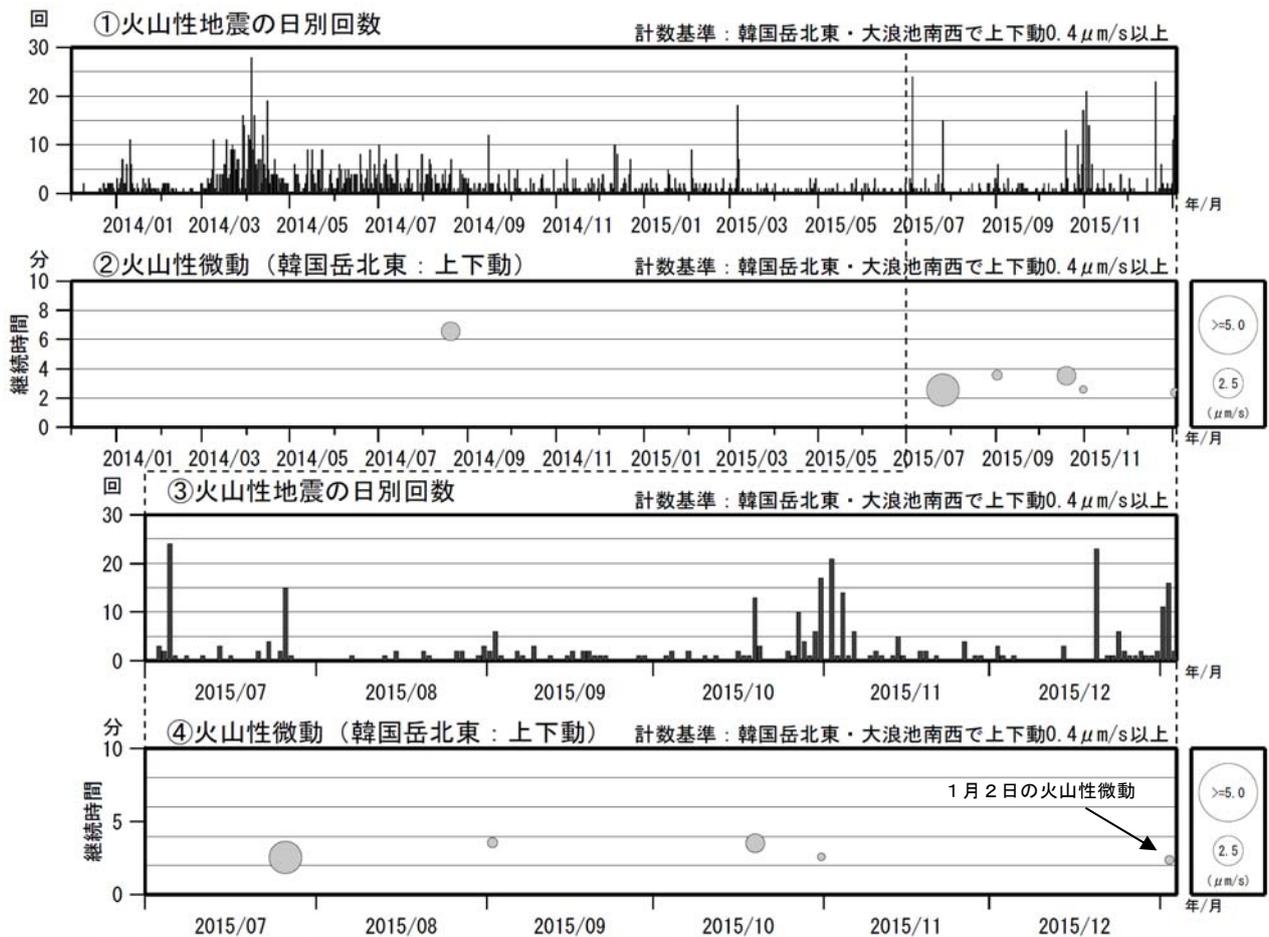


図 3 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 火山性地震と微動の発生状況（2013 年 12 月 1 日～2016 年 1 月 3 日）

- ・ 1 月 2 日 17 時 37 分頃に継続時間約 2 分 30 秒の振幅の小さな火山性微動が発生しました。
- ・ 火山性微動発生後に一時的に火山性地震が増加しましたが、その後は少ない状態で経過しています。

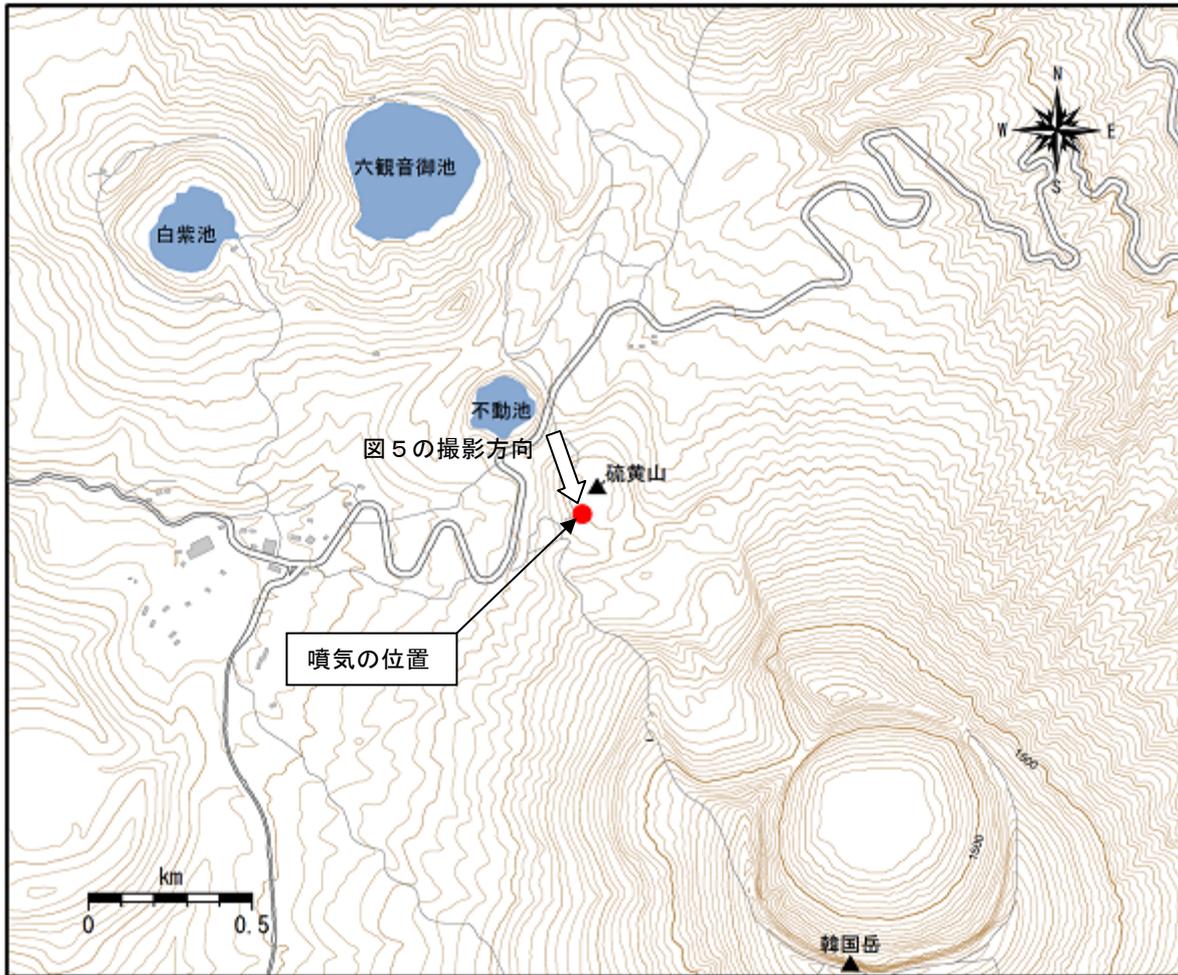


図 4 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 噴気の位置と撮影方向

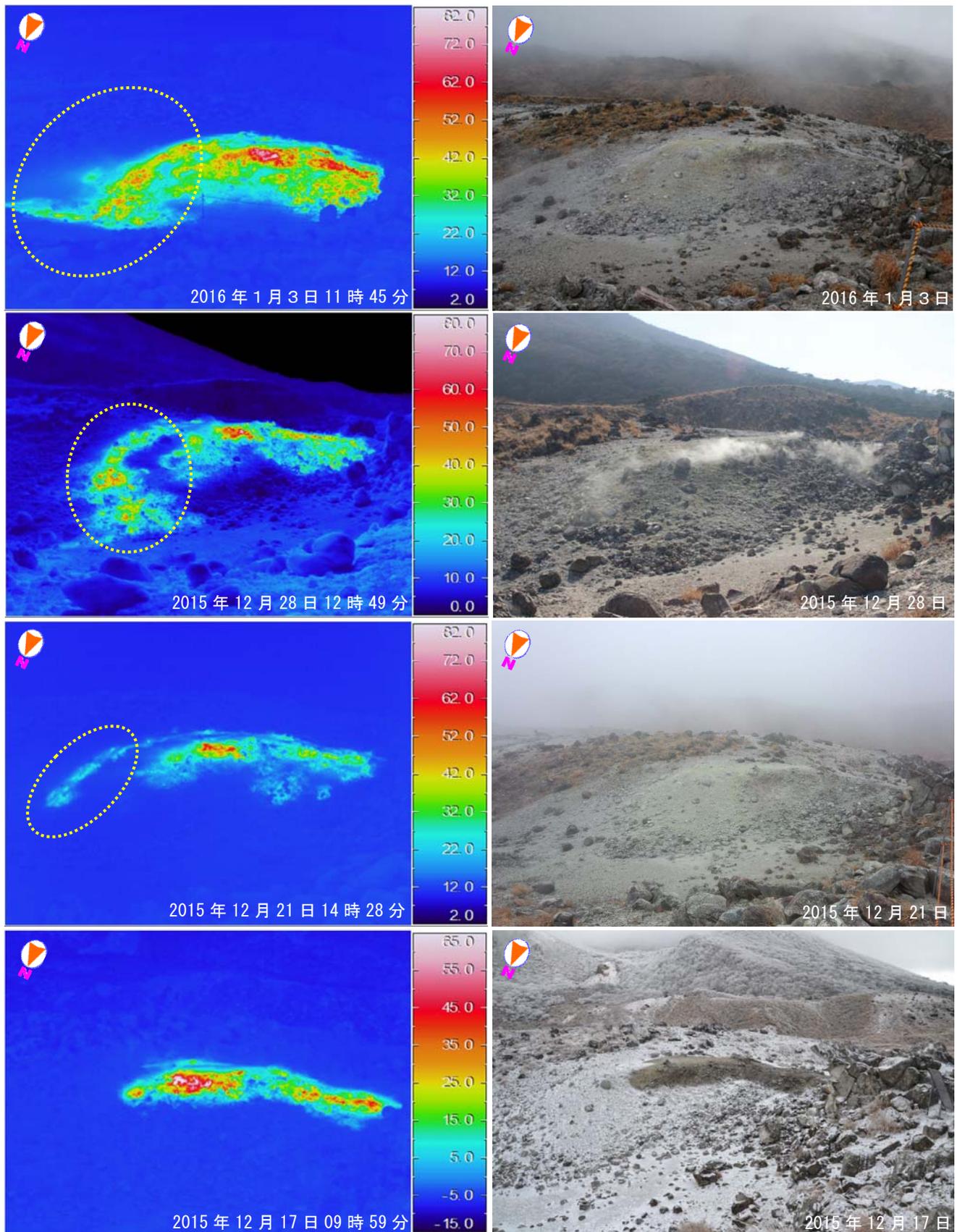


図5 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 硫黄山で噴気を確認した領域の地表面温度分布

- ・硫黄山の火口内の南西側で引き続き弱い噴気を確認しました。
- ・熱異常域がわずかに拡大しているのを確認しました。
- ・熱異常域の最高温度は約 80 度（前回約 80 度）で大きな変化は認められませんでした。
黄色破線は熱異常域の拡大領域を示しています。

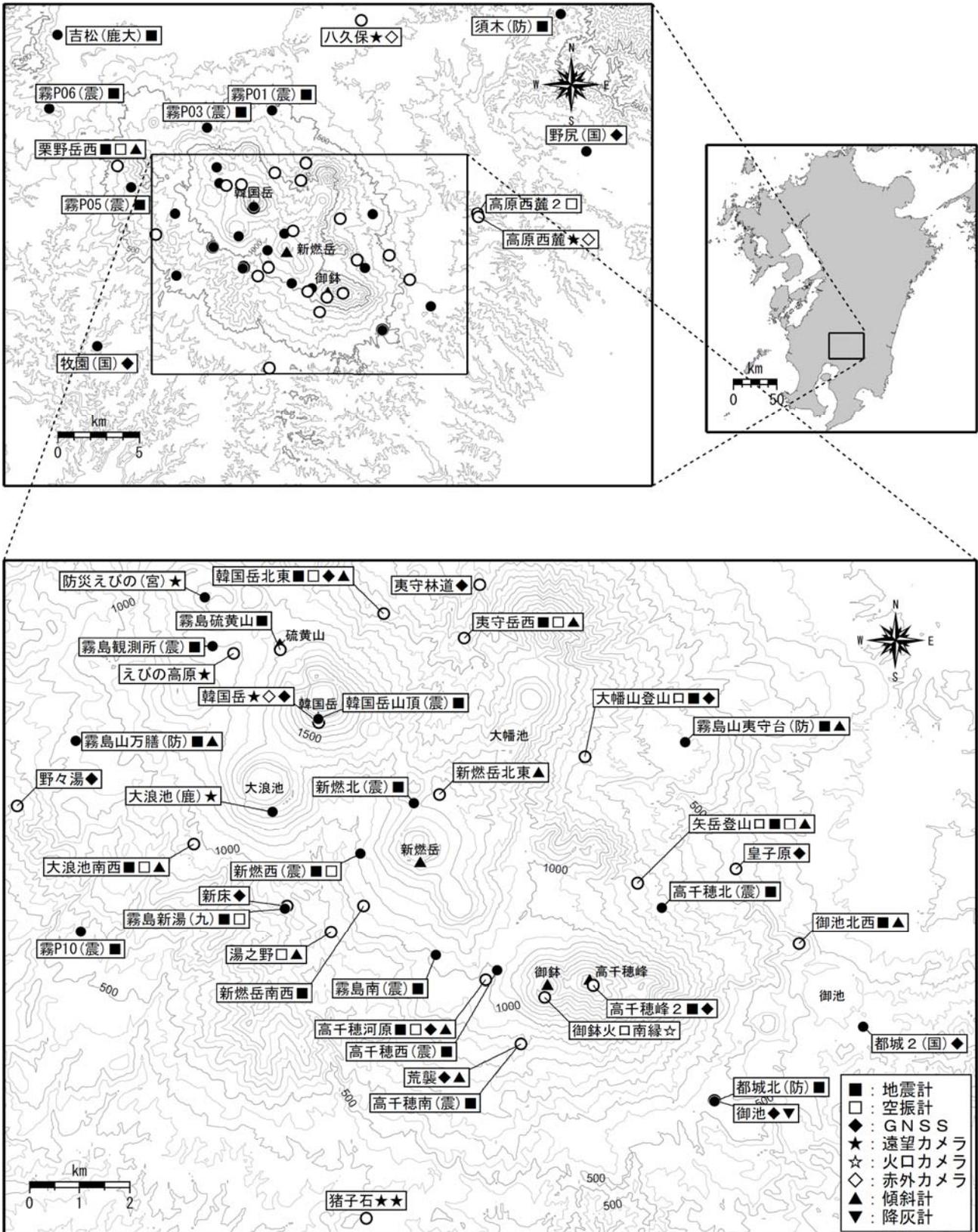


図 6 霧島山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所
 (九) : 九州大学、(鹿大) : 鹿児島大学、(宮) : 宮崎県、(鹿) : 鹿児島県